

談呆国憂

season 2 VOLUME 65

田中康夫

今月の憂い「ト」

銀座「春画」展から、
安保法案の強行採決、
アベノミクス新3本の矢、
鬼怒川の堤防決壊の理由まで。

東京・銀座の永井画廊で開催中の
銀座「春画」展を鑑賞した田中・浅田両氏。
地下の「龍s Bar」で「息つきながら」、
春画のこと、安保法制のこと、鬼怒川のこと、
どこへ向かうのかわからない日本のことを語り合った。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田 彰



江戸時代の春画に見る、表現の自由とは？

浅田 大英博物館で2013年から大規模な「春画」展が開かれたんだけど、肝心の日本では、東京国立博物館あたりに巡回すべきところ、どこも受け入れられる度胸がない。そこで細川護熙元首相が細川家のコレクションを収める永青文庫で開催することにしたのはさすが。由緒正しい永青文庫に春画の観客が大勢押しかけてるのは面白い光景だよ。「性の歴史」のミシェル・フーコーは、オリエンタリズムの誹りを受けるのを覚悟で、性を抑圧・管理するための西洋の「性の科学」に対し、東洋には多様な「性愛の術（アルス・エロティカ）」があったって言うてる。とくに日本は性に対する抑圧が少なく、結果「春画」っていうエロティック・アートも生まれたわけだ。

田中 我々は永井画廊で開催の「銀座『春画』展」を鑑賞したけど、リアルな写真じゃないのが逆に今の時代にはリアルに映るのか、女性の来場者も多かったね。その一方で、突如休刊となった素人投稿雑誌『ニヤン2倶楽部』最終号に、みうらじゅんが長文の「追悼文」を寄せていた。改正児童ポルノ禁止法の罰則規定が7月から施行されて、何をもって「犯罪」と捉えるか、行政裁量で拡大解釈していくのではと萎縮の空気が拡がる中で今回の春画展の敢行はあっぱれだ。

浅田 篠山紀信がかつて少女時代のタレントを撮ったスリッド写真があるけど、今じゃ児童ポルノ規制にひっかかるおそれもあって出せないって言うってた。そういう公的検閲だけじゃない。いまはネット上に猥褻画像があふれてる半面、すぐそうやって検索

可能な形で広まっちゃうから昔だったらギリギリに出せた際どい画像も出せない。TVだって昔は入浴シーンなんかで性器が映っちゃう「事故」がざらだったのに、いまはそれもネットに出ちゃうから神経質にカットせざるを得ない。すべてを晒し晒される情報社会になったことが跳ね返って、自己検閲を招いているわけだね。

田中 「権力」というのは古今東西、規制するのが性だから、江戸時代も徳川吉宗は享保の改革で好色本を禁止し、松平定信の寛政の改革では多色刷りの浮世絵すら贅沢だと咎められた。でも、絵の片隅に画家の名前を符牒で記して、浮世絵師の葛飾北斎や喜多川歌麿だけでなく、奥絵師と呼ばれる幕府に仕えた狩野派の御用絵師まで春画を手掛けていたと知ると、痛快だね。その意味では、今の不可解な空気に抗う、武器を持たない「トロッキスト」の心意気を一人ひとりが抱こう、と春画展は囁いているのかも。

なのに、『太陽の季節』で勃起したベニスを障子に突き立てるシーンを書いた石原慎太郎が「文人都知事」として歌舞伎町浄化作戦を陣頭指揮するとは（苦笑）。

浅田 ぼくは荒木経惟の私小説的写真を評価しないけど、彼が初期に『写真時代』なんかで警察の規制すれすれのゲリラ戦を展開してた、あの意気は買うよ。いま、そういう表現への検閲がものすごく強まっている。田中 「空前のブーム到来」とカラーグラビア6頁で春画展を特集した『週刊文春』



編集長が、「編集上の配慮を欠いた点があり、読者の信頼を裏切ることになった」と3か月の休養処分を受けてしまった。児ボ法を「根拠」に、未成年の性交を描いた「源氏物語」を高校の授業で扱うな、発禁処分にせよ、つてな発言も出てきかねないよ、冗談でなく。

安保法案が強行採決。今、政治に必要なことは？

浅田 安倍晋三政権が安保法を強行採決、その後、内閣を改造し、経済に重心を移そうとしてるけど、世論がそう簡単に変わるかどうか。

1960年に岸信介政権が日米安保条約改定案を強行採決したときは、右翼の猛者を公設秘書に採用し、衆議院特別委員会に座り込んだ。でも東京農大柔道部

出身の金丸信が議長を議長席まで担ぎ上げた。対して、今回は参議院の鴻池祥肇特別委員長が野党に配慮しようとした結果とはいえ、延々と混乱が続く、強行採決の段階では速記録さえないんだから、形式的に言えば本当に採決されたかどうか怪しいんだよね。ただ、今回の強行採決は予告されたクー・デタみたいなもの。安倍の名誉のために言えば、彼は一貫して9条改憲を目指してきた。能ある鷹は爪を隠すっていうけど、この無能な鷹の爪はずっと剥き出しだったわけだ。第1次安倍政権でも国民投票法をはじめ17回も強行採決を連発。第2次

安倍政権ができる前の選挙では経済を前面に押し出したものの、安保政策も公約に書かれてたのは事実だからね。そんな安倍に絶対多数を与えた国民が愚かだったんで、今回のことも次の選挙まで覚えてられるかどうか。

田中 フーコーの研究者でもあるメディア情報学者の石田英敬が、「牛歩戦術を批判する与党も、質問にきちんと答えず、のらりくらりと時間稼ぎをしていたのだから、牛歩戦術と同じこと」と述べていた。でも、その流れで言うと、特別委で採決が行われて以降の野党は、「国民の皆さんから（牛歩を）やれと声が上がってきている」と民主党幹事長の枝野幸男は述べていたのに、結局は腰砕けだった。複数の解任動議や問責決議、不信任決議を衆参両院で記名投票する際に毎回、野党議員全員が牛歩を行えば、9月19日土曜日の明け方になっても採決は終わらず、5連休に突入して、会期末を迎えていた。あるいは亀井静香が述べていたように、野党が一斉に議員辞職したら、善くも悪くも採決なんてすっ飛んでしまったんだよ。その程度の気概すら野党にはなかったのに、元々は改憲派の憲法学者として改憲を党是とする自民党の議論を主導してきた小林節が、今回は解任改憲とすら呼び得ぬ邪道だと集団違憲訴訟を準備し始めると、我々も支援しますだなんて、この間の政治状況に不安を抱いていた人々には、他力本願なご都合主義だと映ってしまうね。ウーム、最後まで気を吐いていたのが山本太郎だけとは。

浅田 山本が本会議で喪服を着て数珠を手に拜んでみせたのはやり過ぎだけど、委員会議質疑では頑張ってたね。ちなみに、彼が一人牛歩をやっている時間に、ツイッター上

の「牛」というキーワードに株の自動取引プログラムが反応したのか、一瞬、松屋フーズの株が高騰したらしい(笑)。

とにかく、安保法を通したことで立憲主義を侵した半面、憲法改正はますます難しくなった。そもそも、内閣法制局長官をすげ替えて従来の憲法解釈を変更し、違憲であることが明白な安保法を強行採決するのは、立憲主義の否定であって許しがた

い。日米がロシアや中国の人治に対し法治を強調するとき、自ら法治を捨てて人治を選んだとも言えるしね。しかし、それで言えば吉田茂政権が警察予備隊(後の自衛隊)をつくったときに最大の解釈改憲をしちやつてるんで、いまだに驚かないとも言えるわけ。立憲主義から言えば、憲法のとおり自衛隊を廃止して田中さんの言う国際救助隊のようなものにするか、あるいは現在の自衛隊に見合う形で憲法を改正するか、どっちかにしたほうがすっきりするんで、解釈改憲は最悪だったことになる。ただ、憲法の理想主義と政治の現実主義の矛盾を抱えたままいく吉田路線も、大人の知恵ではあつてさ。田中さんのかつての比喩で言えば、真性包茎に戻るか、手術をして露茎にするか、そうやってすっきりさせるより、仮性包茎のままいく手もあるだろう、と。その意味でも、憲法改正がますます難しくなったのは悪いことじゃない。

田中 それにしても今回の安保法で対中抑止力が格段に高まったと真顔で述べている連中は、ダムさえ造れば洪水は防げると強弁していた面々と同じで、お花畑そのものだ。だって、防衛省の自衛官24万8000人弱に対して人民解放軍の現役兵は10倍近い228万人強。第4世代戦闘機は日本が293機。在日アメリカ空軍・海軍の戦

闘機を含めても約480機で中国の731機には及ばない。潜水艦も16艦に対して69艦。核弾道はゼロ対250。予算規模も5兆円台の日本と、その3倍の15兆円台の中国では月とすつぽん。仮に防衛予算を次年度から3倍増としても、ハードパワーは一夜潰けできないからね。

浅田 「切れ目のない安全保障」と言いつつ、実は「切れ目のない対米従属」ではない。ただ、朝鮮戦争では機雷除去をしたり、アフガン戦争ではインド洋で米艦に給油したりしてきたわけで、今回は日本が協力する範囲を多少広げただけ。中国はもともと日本は米軍について動くを見てるんで、新たな安保法はそれにほとんど影響しない。フリーピンが、かつてアメリカに返還させたスービック基地に、最近の中国の進出に

応じて再び米軍の駐留を許す、そういうのはっきりした変化はないわけよ。

田中 今や中国は世界最大の貿易国。その中国の対日貿易量を100とすると、対米220、対EU260。米国もEUも、日本以上に中国とは「ヒト・モノ・カネ」で密接な関係。「大筋合意」と日本では報じられていたTPPだって、中国包囲網どころか逆に日本包囲網へと変容する可能性は高い。だから、我々が以前から述べているよ

うに、言葉による外交交渉で打開するしかない。その智力と胆力を外務省が持ち合わせているか、疑問ではあるにせよ。

浅田 とにかく、第1次安倍政権に愛想を尽かしたのを忘れ、第2次安倍政権の成立を許した過ちに懲りて、今回の暴挙の記憶を次の選挙まで保てるかどうか問題。その意味で共産党が素早く野党の大連立を視野に入れた選挙協力を提唱したのは人民戦線戦術として正しいと思うよ。さっそくそれに反発するような民主党右派は自民党に移ればいい。「平和の党」であるはずの公明党を自民党がここまで引きずってきた結果、公明党と創価学会の間に亀裂が生ずる事態に立ち至ったわけで、民主党はこの機

「新3本の矢」は、矢じやなく的、夢のような的を並べただけだけど、特に出生率の話は夢物語だね。(浅田)



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

さらに、言葉による外交交渉で打開するしかない。その智力と胆力を外務省が持ち合わせているか、疑問ではあるにせよ。

浅田 とにかく、第1次安倍政権に愛想を尽かしたのを忘れ、第2次安倍政権の成立を許した過ちに懲りて、今回の暴挙の記憶を次の選挙まで保てるかどうか問題。その意味で共産党が素早く野党の大連立を視野に入れた選挙協力を提唱したのは人民戦線戦術として正しいと思うよ。さっそくそれに反発するような民主党右派は自民党に移ればいい。「平和の党」であるはずの公明党を自民党がここまで引きずってきた結果、公明党と創価学会の間に亀裂が生ずる事態に立ち至ったわけで、民主党はこの機

会に立ち至ったわけで、民主党はこの機会に社共と組んで巻き返しを図るべきだよ。さらに言えば、自民党の中道派から共産党まで含めた「大きな政府」派・ハト派と、それ以外の「小さな政府」派・タカ派に分かれれば、政治の構図がはつきりするんだけどな。

田中 フランスでも、ナチス・ドイツに対するレジスタンス運動では「愛国主義とインターナショナルイズムの融合」を共産党が掲げ、シャルル・ド・ゴールも国家の独自性を取り戻すには共産党とも協調すると述べていた。こうした懐の深さが、望ましい

いね。

浅田 アベノミクス第2ステージの「新3本の矢」で掲げたGDP1名目国内総生産600兆円達成には、経済同友会代表幹事の小林喜光・三菱ケミカルホールディングス会長が「あり得ない数値だ。政治的メッセージとしか思えない」と辛辣なコメントを発表した。「一億総活躍社会」も、戦時中の「進め一億火の玉だ」や敗戦後の「一億総懺悔」を連想させると評判がよろしくない。

田中 引責辞任した専務CFOを財務顧問で再登板させた東芝問題をはじめとして、「劣化」が多方面で起きているのも恐ろしいね。

浅田 アベノミクス第2ステージの「新3本の矢」で掲げたGDP1名目国内総生産600兆円達成には、経済同友会代表幹事の小林喜光・三菱ケミカルホールディングス会長が「あり得ない数値だ。政治的メッセージとしか思えない」と辛辣なコメントを発表した。「一億総活躍社会」も、戦時中の「進め一億火の玉だ」や敗戦後の「一億総懺悔」を連想させると評判がよろしくない。



でも、そうした言葉尻をとらえる前に、

「一億」という「量の維持」信仰から脱却するのが大前提でしょ。夢をつむぐ子育て支援」で「希望出生率1・8を実現。50年後に人口1億人維持」と言うけど、合計特殊出生率が1・43の日本の人口は、仮に年間20万人の移民を受け入れたとしても50年後に1億人維持は不可能だと国立社会保障・人口問題研究所が予測している。「日本凄いゾ論」の皆さまが一番光り輝いていたと胸を張る日露戦争前後の日本の人口は、現在の半分にも満たない4700万人前後だった。質の深化こそ求められていると発想を転換すべき。

希望出生率という聞き慣れない言葉だけど、その定義は夫婦が予定する子供数と独身者が理想とする子供数を足した数値で、調査したら1・8だったので実現可能という占い師のような話なんだ(苦笑)。

浅田「新3本の矢」は、矢じやなく、それも夢のようなのを並べただけだけど、特に出生率の話は夢物語だね。労働集約的な産業の時代は終わって、いまはむしろ人口が増えなくても多少減っても質的な豊かさを維持する仕組みを考えるべきだし、その可能性は十分にあるのに。

ヨーロッパが難民危機で大変だけど、外国人労働者を二級市民にしない形でいかに受け入れるかも、もっと具体的に考えていく必要があるね。

田中 ヴェトナムから来た外国人技能実習生が劣悪な勤務と生活の中で空腹を満たすために、誕生日に岐阜県美濃加茂市の荒廃農地で2頭のヤギを盗んで逮捕され、身勝手な犯行で情状の余地はない」と検察は懲役2年を求刑し、判決では執行猶予3年となった今春の事件を思い出すよ。前払い保

証金150万円で日本に送り込んだ悪徳な

仲介業者や労働基準法違反の1日20時間労働を強いた雇用主はお咎めなし。やるせないね。日本も昔は集団就職で上京した「金の卵」がいたけど、町工場で技術を習得して郷里に戻って独り立ちしたり、腕を見込まれて娘婿として後継者になったりしたでしょ。安価な労働力としてこき使って反日感情を抱かせるのでなく、親日家として祖国に戻ってもらうべき。実はヴェトナムでも合計特殊出生率は1・7台。タイは最早日本と同じ1・4台。ASEANでも少子高齢化は急速に進行する。例えば介護職として受け入れた彼らを使い捨てるのでなく、日本との合弁で現地に設立した福祉分野の企業で管理職や経営者として活躍してもらう、よい意味での「暖簾分け」の発想こそ望ましいWelfareなんだけどね。

鬼怒川の堤防が決壊した 本当の理由とは？

田中 前回の最後に少し触れたけど、日本の堤防は土と砂だけの「土堤」で、コンクリート壁の隙間から水が浸潤し、平時から内部は液状化現象を起こしがち。大雨で壁面が崩れると一気に堤防全体が破堤してしまう。そこで欧米諸国や韓国では、過去に



安価な労働力としてこき使って反日感情を抱かせるのでなく、親日家として祖国に戻ってもらうべき。(田中)

決壊した箇所、決壊が想定される箇所には

堤防の両肩から基礎まで鋼矢板を縦に2枚打ち込む強化策を導入している。膨大な費用と歳月を要するダム建設やスーパードームと違ってコミュニティを分断せず、製鉄メーカーも地元の土木業者もハッピーな公共事業。この鋼矢板工法を10年近く提言してきたのに、土と砂以外の「不純物」が堤防内に混じるのは認められないと国土交通省水管理・国土保全局(旧河川局)は抵抗し続けてきた。白砂青松とは釣り合いなテトラポッドを海岸にも川岸にも置いて、多摩川を湛る首都高速湾岸線のトンネルにも鋼製のケーソンに沈埋函を使っているのね。実は鬼怒川の200メートルにわたって決壊した箇所には、僅か2週間で仮設堤防が完成した。しかも、皆さまのNHKによれば「強度を高めるため高さ4メートルの鉄製の板およそ600枚を設置」した鋼矢板工法で(苦笑)。ところが河川管理者の国土交通省関東地方整備局は、11月以降、仮設の堤防に代わる新たな堤防(土堤)の建設工事を「行わない」だなんてあきれられる。堤防が丈夫すぎると、計画から63年目の今年に本体着工の八ッ場ダムもスーパードーム不要と言われるのが怖いんだ。「フィクションドキュメンタリー」という

意味不明の惹句を冠して、国交省が製作した「荒川氾濫」という映像がメディア上に氾濫しているけど、わずか22キロで1兆円と公言するスーパードームが江戸川だけでなく荒川にも必要だと思えば洗脳していると思えない。「今、そこにある危機」を軽減するのは鋼矢板工法や、重機を用いて1平方メートル1万円強で実施可能な予防医学としての堆砂の浚渫なのに、スーパードームは100年かけて万里の長城を造るようなおバカな話。

そうそう、台風一過の秋口には県管理河川の堆砂状況を総点検し、県独自に補正予算を組んで必要箇所の浚渫を行いますと国交省河川局に報告すると、褒められるどころか逆に渋い顔をされちゃった「今、そこにある危機」の記憶も蘇ってきたよ。

浅田 東日本大震災の復興でスーパードームを造ったとして、今回以上の津波が来たら防げるのかって話にもなるね。あるいは、浜岡原発でスーパードームを造ったはいいけど、万一それを越える津波をかぶったとき、今度はたまった水をどう排水するのか、と。そもそも、原発の再稼働を強行するため、やたらに安全装置を付け足して、原

発のシステムが複雑になって、危機に際し全体を見渡しつつ機敏に対応するのが難しくなってるっていうからね。

田中 責任とは何かという話だ。日本では過去に一度たりとも河川管理者が業務上過失致死傷害罪等の刑事罰に問われた事例が存在しないんだ。2004年の「新潟・福島豪雨」で信濃川水系の刈谷田川と五十嵐川の計11箇所が決壊し、15名が犠牲となった時も、警察や検察の捜査は行われなかった。日本の不作為は、マンションの杭打ちデータ偽装だけにとどまらない。いやはや



浅田 彰
あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力ー記号論を超えて』はベストセラーに。